

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和6年1月16日（火）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：吉野長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから1月16日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○吉野総務課長 報道官の吉野です。

原子力規制委員会の広報日程について御説明いたします。

まず、1月17日10時半から第59回原子力規制委員会が開催されます。

議題1は「国立研究開発法人日本原子力研究開発機構新型転換炉原型炉ふげんの新型転換炉原型炉施設原子炉設置変更許可－使用済燃料の処分の方法の変更－」についてです。

ふげんの新型転換炉原型炉施設については、昨年7月28日に、フランスで使用済燃料の再処理を行った場合に、回収されたプルトニウムをそのまま譲渡するというを前提に原子炉設置変更許可申請が提出されております。委員会ではこれを審査いたしまして、11月29日に審査結果の案を取りまとめ、原子力委員会、文部科学大臣、経済産業大臣の意見聴取手続を行ってまいりました。これに回答があったことから、今回、設置変更許可を決定することについて委員会に諮るものでございます。

議題の2は「リサイクル燃料貯蔵株式会社リサイクル燃料備蓄センター使用済燃料貯蔵事業変更許可申請書に関する審査の結果の案の取りまとめ－型式証明を受けた金属キャスクの追加等－」です。

リサイクル燃料備蓄センターでは、従来、柏崎刈羽原子力発電所から使用済燃料を受け入れていましたが、今後、日本原子力発電の敦賀発電所、それから、東海発電所からも使用済燃料を受け入れるために、受け入れられるキャスクの型式を追加することを目的に、使用済燃料貯蔵事業変更許可申請を9月21日に提出しております。これについて審査結果の案を取りまとめたため、今般、委員会に諮るものでございます。

議題の3は「令和6年度から開始する安全研究プロジェクトに係る事前評価」です。

原子力規制庁基盤グループでは、令和6年度から事故耐性燃料等の事故時の挙動研究、地震動評価手法の信頼性向上に関する研究、断層の活動性評価手法に関する研究の3つについて新たな安全研究プロジェクトを開始いたします。そのため、事前評価として、研究内容の技術的な妥当性、技術評価検討会で得られた外部専門家の意見の研究計画への反映などを評価しております。その結果を委員会に報告し、了承をいただくものでご

ざいます。

議題の4は「東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所の中期的リスクの低減目標マップにおける取組の進捗状況と改定の方針」です。

原子力規制委員会では、1F（福島第一原子力発電所）において計画的にリスクの低減を図っていくために、平成27年2月にリスクマップを決定いたしまして、リスクの低減目標と時期を示してきております。このリスクマップは随時更新をしているわけですが、今回の定例会では、現行のリスクマップに対する進捗について、12月18日の1F検討会（特定原子力施設監視・評価検討会）で聴取した内容を報告するとともに、リスクマップの今後の改定方針を事務局から提案し、了承について諮る予定としております。

1Fのリスクの管理については、非常に放射性物質の線量が高いなど、引き続きリスク低減を厳しく進捗管理していくべきものと、相当程度既にリスクが低減されて、中長期的な目標の達成を目指して柔軟に対応していくほうが効果的なものといったような異なるリスクに今後対応していく必要がございます。こうした段階に現場がなっていることを踏まえて、リスクマップについても、従来のものから取りまとめのやり方を変更するという点について、事務局から提案をし、御議論をいただくという予定となっております。

本日の案件は以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問をお願いいたします。御質問のある方は手を挙げてください。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。ありがとうございました。

—了—